

~ 原価計算って何に使うの?? ~

質問

原価計算って製造業にしか必要なの??

回答

原価計算は、あらゆる企業において必要となります!!

そもそも原価とは、「特定の目的達成のため、犠牲にされる経済的資源を、貨幣価値によって測定したもの」と定義されます。このため原価は、その対象となる目的によってどのようなものにも変化します。例えば製造業においては「製品製造にいくらかったのか」、流通業においては「商品を仕入れるための仕入原価」、またサービス業では「サービス提供のためのサービス原価」が対象となり、原価計算を行うこととなります。

### 原価計算の目的

それでは、なぜ原価計算が行われるのでしょうか。それは個別の収益を対象として、これに対する個別の原価を対応させることで、個別に利益を算出することにあります。このため原価計算では、一般的な原価の範囲に留まらず、個別収益との対応を進めていくことで販売費及び一般管理費、利息等のコストも範囲に含めていくことができるようになります。例えば、販売促進コスト（広告宣伝費や販売手数料等）や物流コスト（運送費や倉庫料等）といった販売費も、取引先別・ルート別の収益と個別対応させることにより、原価として扱うことができます。原価計算は、収益とコストの個別対応関係を明確にさせ、利益を管理していくための基本的なツールとなるわけです。

また、物事を判断するとき通常、メリット・デメリットを比較していきますが、原価計算ではこれを貨幣価値で定量的に行う点に特徴があります。このような定量的な情報はその前提さえ明確にしておけば客観性が保たれ、理解しやすく、その効果の大きさも測定することができます。このように原価計算は物事を定量的、客観的に把握するため、いろいろな経営判断に有効なものとなります。

(参考文献：経営に活かす原価計算の実務 公認会計士 金岡光男 同文館出版)